

教科	農業	科目	野菜	単位数	2 単位	学年	2 年	コース	園芸
使用教科書	野菜(実教出版)			使用副教材等	ワークシート、実習記録簿				

目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力の育成を目指す。特に、圃場で学ぶことを主軸として、野菜栽培に関連する知識や技術の習得、実習を通じた野菜の生育の変化や作業効率を高めるためのポイントに気づき、改善していく能力、そして、農業と地域社会に関連性を見出していく主体的な態度を養う。		
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	野菜栽培および野菜の生理・生態に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、野菜栽培管理に必要な資材名や使い方を理解し、指導者の指示を遵守し、適切に作業を行うことができる。	野菜栽培や経営に関して、生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法および社会・自然環境へ与える影響などの課題を発見し、地域の野菜経営の実践事例などを参考に、創造的に解決する力を身に付けている。	野菜生産が担う社会的な役割を理解し、生産する野菜の品質と生産性の向上を図るとともに、実習においては、自らの役割に責任感を持ち、主体的かつ協働的に取り組むことができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ・小テスト パフォーマンステスト ワークシート ・実習記録簿 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ・実習の様子 ワークシート ・実習記録簿 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ・実習記録簿 座学、実習時の様子

担当者からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 座学と実習とのつながりを意識して授業に取り組んでください。 実習では特に時間厳守を意識し、服装や身だしなみを正しく整えて授業に臨むようにしてください。 座学および実習では、自ら行動し(自主性)、仲間と協力して(協働)、片付けまで集中して(責任感)取り組むようにしてください。 実習で学んだ内容は、実習記録簿に詳しく記入して期限に遅れないように出すことを心掛けてください。
-------------	--

学期	月	学習内容 学習のねらい	観点別評価規準	
1	4 5 7	○授業オリエンテーション (授業の進め方や実習に関する諸注意、評価の仕方などを学ぶ)	(知):知識・技術 (思):思考・判断・表現 (態):主体的に学習に取り組む態度	
			座学	実験・実習
		○野菜の生育と生理 (野菜の生育と生理に関する基礎的な内容を理解する)	<ul style="list-style-type: none"> 実習と関連付けながら、野菜の生育と生理に関する基礎的な内容を理解する。(知) 野菜生産の特性と栽培技術に関する課題を学び、先行事例を参考にし、科学的な根拠に基づいた解決方法を考える。(思) 野菜生産の特性と栽培技術について自ら学ぶ姿勢を持っている(態) 	<ul style="list-style-type: none"> 圃場の位置や資材の名称、基本的な作業工程を理解し、適切な作業を行うことができる(知) 果菜類の生育特性を理解した上で、より効率的に作業を進める工夫ができる(思)
	○果実を利用する野菜の栽培 【トマト、スイカ、メロン等】 (複数の野菜の栽培管理を通じて、それぞれの生理に応じた管理方法があることを学び、野菜栽培の栽培管理・経営上の課題を発見することができる)	<ul style="list-style-type: none"> 果菜類の生育・生理特性に関する基礎的な知識および栽培管理を理解する。(知) それぞれの野菜の栽培管理上の課題を発見し、先行事例等を参考に、改善方法を考える(思) 野菜生産の特性と栽培技術について自ら学ぶ姿勢を持っている(態) 	<ul style="list-style-type: none"> 実習における気づきを記録簿にまとめることができる(思) 他者と協働し実習を行い、自身の取り組みを客観的に評価することができる(態) 提出物の期限を順守する(態) 	
	9 5	○野菜の育苗 (秋作の野菜の播種や育苗の実習を通して、育苗の意義や歴史、育苗技術を理解する)	<ul style="list-style-type: none"> 播種や育苗の意義および育苗技術を理解する。(知) 育苗技術からIPMを関連付け、その他の病害虫防除の方法との組み合わせを考える。(思) 	<ul style="list-style-type: none"> 作業工程および全体の動き方を理解し、必要な道具や作業の方法を選ぶことができる(知) 野菜の生育特性を理解した上で、より効率的に作業を進める工夫ができる(思)

2	1 2	<p>○果実を利用する野菜の栽培 【トマト、メロン等】</p> <p>○葉や花茎を利用する野菜の栽培 【ハクサイ、ホウレンソウ、ブロッコリー等】 (春作と秋作の相違点を理解し、季節に応じた栽培管理を理解する。また、プロジェクト学習の進め方を理解し、課題の精選・調査・集計を行う)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・葉菜類の生育・生理特性に関する基礎的な知識および栽培管理を理解する。(知) ・果菜類の栽培管理に関する課題を精選し、秋作においてその改善方法を計画・実行し、評価することができる(思) ・課題発見・解決に向けて主体的に取り組むことができる(態) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習における気づきを記録簿にまとめることができる(思) ・他者と協働し実習を行い、自身の取り組みを客観的に評価することができる(態) ・提出物の期限を順守する(態)
3	1 3	<p>○野菜の安全性/野菜の栽培環境と生育調節 (環境制御型ハウスを活用し、環境制御および、GAP【農業生産工程管理】を理解する)</p> <p>○果実を利用する野菜の栽培 【トマト、メロン等】</p> <p>○葉や花茎を利用する野菜の栽培 【ハクサイ、ホウレンソウ、ブロッコリー等】 (2学期に実施したプロジェクト学習の内容をまとめ、発表を行う)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GAPの意義および具体的な取り組みを理解する。(知) ・環境制御技術により、調節されている環境要因および、制御方法を理解する。(知) ・GAPの取り組みを通して、今後の農業経営のあり方がどのように変化していくかを考えることができる(思) ・環境制御によるデータを分析し、実際の生育にどのように関連しているかを考えることができる(思) ・プロジェクト学習のデータを分析し、結果をまとめ、聞き手にわかりやすく伝えることができる。(思) ・課題設定に沿った活動を主体的に行うことができる。(態) 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程および全体の動き方を理解し、必要な道具や作業の方法を選ぶことができる(知) ・野菜の生育特性を理解した上で、より効率的に作業を進める工夫ができる(思) ・実習における気づきを記録簿にまとめることができる(思) ・他者と協働し実習を行い、自身の取り組みを客観的に評価することができる(態) ・提出物の期限を順守する(態)